

(様式1) 実践事例

学校名	本宮市立五百川小学校	校長名	菅野 敦子		
住所	本宮市荒井字西畑1番地1	児童生徒数	268	学級数	13
TEL	0243-33-2461	ホームページアドレス			

少人数教育のよさを生かす教師の意識改革と指導の工夫

1 少人数教育の計画等

本校では、少人数教育の趣旨を生かし、子どもたちが自由に意見を述べ合い、集団での思考の深まりを求める授業展開を中心とした授業改善に取り組んでいる。

本年度は、特に「集団での思考の深まり」について、次の2点に焦点を当てて取り組んでいる。

- (1) 児童の考えを意図的に取り上げて、それぞれの発言の価値付けを図るようにする。
- (2) 伝え合い活動を効果的に取り入れながら、それぞれの考えをしっかりと見取り、全体につなげられるようにする。

2 実践の概要

- (1) 2年国語科「場面ごとに読もう」

(登場人物にメッセージを書く活動を通し、自分の思いを伝える授業の実際)

まず、叙述に即して登場人物の気持ちが分かる言葉に線を引かせ、自分の考えを書き込ませた。教師が児童の考えを意図的に取り上げ、称賛し全体で紹介したり、間違いやすい部分について全体で確認したりしたため、児童は会話文に着目し、登場人物のようすや心の変化をとらえることができた。



次に、登場人物にメッセージを書き、友だち同士でメッセージを読み合うことを通して、思いを伝え合わせた。教師が、全体で共有したいメッセージを類型化したことで、児童は活発に発言し、個の読みをグループや学級全体に広めることができた。

- (2) 4年道徳科「友だちへの忠告」

(内容項目：友情、信頼)

まず、資料「大きな絵はがき」を通して、友だちに間違いを指摘できるかどうかを考えさせた。教師の意図的な発問により、児童は葛藤場面自分ならどうするかについてじっくり考えた。教師は、児童の考えを黒板に可視化して考えさせ、それぞれの考えについて全体で共有し深めることができるように話し合いをコーディネートした。児童は、自分の考えと他の考えを比較したり、自分の考えを再度確かめたりすることができた。



次に、友だちを思って、実際に注意した経験や注意できなかった経験を交流することにより、よい友だち関係について考えさせた。教師の意図的な指名により、それぞれの考えを価値付けして全体で紹介した。児童は、自分とは異なるいろいろな考えを知ることができ、価値の内面化につながった。

3 実践の成果と課題

実践事例のような授業を意図的に行ったことで、次のような成果が見られるようになった。

- (1) グループ活動やまとめの発表では、教師が児童の考えを見取り生かすという意識をもち、全体で共有するための視点を明確にすることで、児童は友だちの考えについて意見を述べ、さらには自分の考えを振り返るなど、思考の深まりが見られるようになってきた。
- (2) 伝え合い活動において児童の考えを価値付け称賛したことで、児童は、自分の考えに自信をもち主体的に学習をすすめることができるようになった。

ただし、一人一人の児童の考えをしっかりと見取るには、教師の深い教材研究が必要であり、緻密な単元構想づくりや授業づくりが重要である。今後、一人一人の授業力の向上に向けて、同僚性を発揮した校内研修の充実に励みたい。